21　マルタニシ　（タニシ科）

Cipangopaludina chinensis laeta

兵庫県ランク：C

環境省ランク：VU

種の概要

北海道から南西諸島にかけて広く分布する。稲作とともに日本に定着した大陸からの国外外来種(史前帰化種)と考えられている。しかし、日本の稲作のサイクルにうまく合わさった生活史をもつなど、今では水田生物の標徴種的存在である。水田内を中心に周辺の湿地、水路などに生息する。 殻長30mm前後になり、各螺層の膨らみは強く、縫合は深い。殻表面には刻点列状の微細な彫刻がある。緑褐色から黒褐色の殻皮を有し、成貝では殻口全縁は黒く縁取られる。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○			○				△

県内分布

神戸市、三田市、猪名川町、加古川市、高砂市、西脇市、三木市、小野市、たつの市、赤穂市、上郡町、豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町、篠山市、丹波市、淡路市

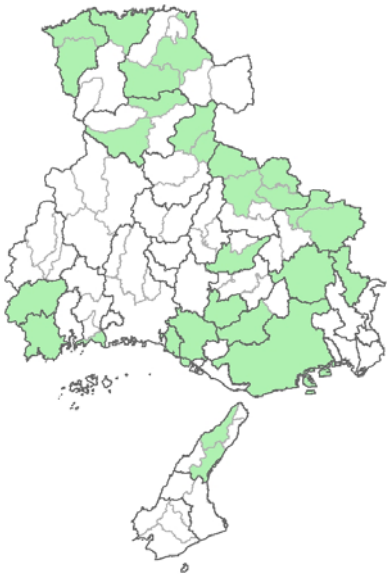
県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。都市部を除くほぼ全域に分布し、日本海側の但馬地域に豊産地が多い。一方で、瀬戸内海側地域を中心に圃場整備や稲の収穫後の耕耘、畑地化、乾田化、稲の植付け時期の遅れなどが顕著であり、生息地が著しく減少している。同様な耕作の変化は丹波篠山地方や但馬でも年々進行しており、楽観視できない状況下にある。

保護上の留意点

刈り取り後は晩春の田起しまで耕耘をせず、湿潤環境を維持することで、冬眠期を安全に確保する。ただし、水田という耕作地に依存している以上、耕作方法は農業者の都合であることから、例えば水田依存性の高いカエル類や水生植物、水生昆虫類などの保護や保全が実施されるような水田地のみでしか方策がとれないのが現状であろう。

写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修